



東大阪市子ども・若者計画

～子ども・若者が自由に夢を描けるまち 東大阪～

ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル編



「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」とは

住民基本台帳から無作為抽出により選ばれた市民と、公募により参加していただいた市内在住・在学の中高生を委員に迎えて開催する市民参加型会議です。この会議の目的は、地域課題の洗い出しと、個人・地域・行政による共創のまちづくりです。特定のテーマを定め、シナリオなしで会議を進行して話し合いを重ねることで、様々な視点より地域課題の洗い出しを行います。そして、その地域課題を市民一人ひとりが「自分ごと化」して考えることで、個人・地域・行政それぞれができることを見つけ、みんなが共創しながら、よりよいまちとなるよう解決策を探ります。

ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブルとは

1

無作為抽出
による委員選定



従来の公募や推薦ではないため、
これまで行政と接点の少ない
市民の方も参加できます

2

地域課題
の洗い出し



テーマに関する地域の困りごとを
さまざまな視点から洗い出して、
課題を整理します

3

自分ごと化
して考える



地域課題に対して自分にできる
こと、地域でできることを
みんなで一緒に考えていきます

中高生の公募について

令和5年度の会議にて、参加した市民委員より「子どもの議題についてみんなで話をする時、子ども当事者の“生の声”が必要ではないか」という意見があり、令和6年度からは公募にて中高生に参加していただいています。また、この取組みは「子どもの意見を聞き施策に反映」の試行実施として行っています。

テーマ

令和5年度：子どもファーストなまちづくり

令和6年度：子どもファースト実現と高齢者のウェルビーイング(生きがいや幸福感)向上の
両立をめざしたまちづくり

「子どもファースト」を軸として話し合いを進め、市民委員の間で意見交換しながら議論を深めました。
「子ども目線で、子どもを真ん中において、子どもファーストを考えること」、「子どもが大人になりたいと思える社会を実現すること」、また
「世代を超えてつながり、ささえあい、子どもも高齢者も誰もが主役として活躍できる共生社会を実現すること」などが提案としてあげられました。

会議で出た意見が反映された市の取組み

参加市民からいただいた意見を市の施策へ反映し、様々な取組みが実現しています。
会議の中で取り上げられた「子ども・若者の居場所づくりの推進」については、市が今後新たに集中的に取り組む施策の一つとして子どもファーストロードマップへ掲載しました。



その他にも、市立図書館やイコーラム(男女共同参画センター)における自習スペースの設置や、駅前交通広場を活用したイベントの実施など、子どもファースト施策が積極的に進められています。

例年に続き、子どもファーストを中心としたテーマで、令和7年度は子ども・若者が安心して成長し、夢や希望を持つことができるまちづくりについて話し合いました。子ども・若者当事者だけでなく、さまざまな世代の方々が交流しながら多角的に考えることで、子ども・若者が自分らしくいられるまちの姿を全4回の会議において考え、意見を出し合いました。

申込状況

【R7】 無作為抽出+中高生公募+R6参加者一部
計:49名

<無作為抽出>

<中高生公募>

データ 受付期間 : ①8/1 (金) ~8/22 (金) (2000件)
②9/5 (金) ~9/22 (木) (500件)
抽出対象者 : 2500名

: 7/1 (火) ~8/22 (金)

選定 申込者数 : 28名 (①24名②4名)
選定方法 : 年齢層ごとにランダム抽出
選定数 : 28名 (申込者全員)

: 15名
: 市内在住・在学の中高生
: 15名 (中学生12名、高校生3名)

分析

	年齢区分					合計
	送付	無作為	中	高	R6	
12~17	-	-	12	3	-	15
18~29	700	9	-	-	-	9
30~39	600	7	-	-	1	8
40~49	500	4	-	-	1	5
50~59	350	5	-	-	-	5
60~	350	3	-	-	4	7
計	2500	28	12	3	6	49

	男女比					合計
	送付	無作為	中	高	R6	
男	1250	15	3	1	3	22
女	1250	13	9	2	3	27
計	2500	28	12	3	6	49

	地域比					合計
	送付	無作為	中	高	R6	
東	1056	3	4	1	2	10
中	769	13	-	1	3	17
西	673	12	8	1	1	22
計	2500	28	12	3	6	49

参加状況

	日程	全体出席	うち中高生出席
第1回	10月5日	43名 (87.8%)	13名 (86.7%)
第2回	10月26日	39名 (79.6%)	13名 (86.7%)
第3回	11月24日	38名 (77.6%)	12名 (80%)
第4回	12月21日	37名 (75.5%)	12名 (80%)
計		49名中 平均39.2名 (80.0%)	15名中 平均12.5名 (83.3%)

※令和6年度は、参加者数 (54名中平均40.5人) 出席率 (75.0%)



自分に関係ある?ある!

会議参加者

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・無作為抽出住民 28名* *住民基本台帳より無作為に選ばれた2,500名の中から参加した方 ・中高生委員15名 ・昨年度より引き続きの参加委員6名
コーディネーター	A班 伊藤伸氏（構想日本 総括ディレクター） B班 林恵子氏（NPO 法人ブリッジフォースマイル 理事長）
ナビゲーター	【専門家の立場から議論にあたって論点の提示や話題を提供する役割】 A班 定野司氏（構想日本・特別研究員/東京みらい中学校校長） B班 むんちゃん（虐待サバイバー）

各会議概要

第1回	【令和7年10月5日（日）9：00～12：00】 ・開催趣旨の説明、東大阪市の現状説明 ・自分ごと化会議の説明 ・班に分かれて、委員より自己紹介など
第2回	【令和7年10月26日（日）9：00～12：00】 ・ナビゲーター講演（A班） ・グループ別に「子ども・若者が夢を叶えられるまちづくりについて」意見交換 ・改善提案シートの記入など
第3回	【令和7年11月24日（月）9：00～12：00】 ・ナビゲーター講演（B班） ・グループ別に「子ども・若者が夢を叶えられるまちづくり」について意見交換 ・改善提案シートの記入など
第4回	【令和7年12月21日（日）9：00～12：00】 ・提案書（案）について協議 ・意見提出シートの記入など

- A班ナビゲーター定野 司 氏からの話題提供 -

定野氏からは、元教育長および現東京みらい中学校の校長としての経験を踏まえ、子どもが大人になりたいと思える社会をどうつくるかについて話題提供がありました。

- 不登校は子ども自身の問題ではなく、「学校側が子どもに選ばれなくなった結果」である。現在校長を務める東京みらい中学校では、下駄箱や定期テストをなくし、始業時間を遅くするなど、学びの方法について根本から考え直し、学びの機会を確保しつつも、子どもが「通いやすい・選べる」学校づくりを実践している。
- 子どもや若者は社会と共生しながら成長する。子どもは学びの期間を経て大人になる。大人はつい口を出したくなるが、子どもの主体性や好奇心の芽をつままないために、子どもといかに向き合うかについて考えることが、大人の果たすべき役割である。
- 夢を実現できる東大阪にするための仕組みとして、以下の3つの要素（トライ&チャレンジ）を提案した。
 1. 多様な体験（夢の種を育てる）：学校や企業等が連携して新しい学びの仕組みづくりを行う。また、失敗を恐れずに挑戦する過程を評価する。
 2. 共創の場（夢を形にする）：世代を超えて集まり、アイデアを出し合える場をつくる。
 3. 挑戦を許容する文化：他人と比べるのではなく、過去の自分と比べて成長を実感できるマインドセットを育む。壁（試練）は乗り越えられる人にしかやってこない。

- B班ナビゲーターむんちゃん 氏からの話題提供 -

むんちゃん氏からは、ご自身の幼少期に虐待を受けながらもその環境を生き抜いた経験を踏まえ、虐待や孤独など困難な状況にある子どもたちを地域でどう支えていくかについて話題提供がありました。

- 家庭に居場所がない子どもは、そもそも「助けて」と言った経験がなく、助けを求めるといふ発想自体を持ってない場合がある。大人の「当たり前」を押し付けず、子どもが親を介さずにSOSを出せる大人がいる具体的な場所（例えば子ども食堂など地域で子どもが集う居場所）を、子ども自身に分かりやすく示さなければならぬ。
- 虐待家庭の子どもにとっての優先順位は、遊びや勉強ではなく「今日殴られないか」「ご飯を食べられるか」「怒鳴られずに眠れるか」という生存に関わること。安心する場所があって初めて夢を持てる。生き延びるのに精一杯で、明日生きているかどうかもわからないのに、未来のことは描けない。
- 子どもたちが夢を持つためには、まず安心・安全が守られていない過酷な環境にいる子どもたちを「マイナスの状態からゼロに引き上げる」ための支援が不可欠である。

「子ども・若者が自由に夢を描き、地域全体でみんなの夢を応援するまち」をつくる。

<p>提案 1</p>	<p>【夢を見つける】子ども・若者が多様な生き方の大人や職業と出会う「リアルな体験機会」を増やすことで、将来の選択肢を広げるきっかけをつくる</p>
<p>提案 2</p>	<p>【夢を守り育てる】家や学校以外に、子ども・若者がホッとできる「居場所」やナナメの関係の「相談相手」をつくる</p>
<p>提案 3</p>	<p>【夢を実現する（夢に向かって挑戦する）】スポーツ・文化大会やアイデアコンテストなどを通じて、子ども・若者の「やってみたい」を形にする</p>
<p>提案 4</p>	<p>【夢を広げる】ルールとマナーを共有し、お互いの文化を学び合える「国際交流都市」をつくり、多文化共生社会を実現する</p>
<p>提案 5</p>	<p>【夢を応援する】大人が子どもの話を「聴く」姿勢を持つために、大人の意識改革と心と時間に余裕を持てるような環境づくりを進める</p>
<p>提案 6</p>	<p>【夢を見守る】地域全体で「おせっかい」を焼き合い、誰もが孤立せずに繋がりが合える温かいコミュニティを構築する</p>
<p>提案 7</p>	<p>【夢を持ち続けるための基盤づくり】道路整備、交通安全対策、医療体制の充実や、インターネットや性のリテラシーを高める研修の実施など、安心して暮らせる生活基盤を整える</p>

ある中学生の夢



中学3年生のAさんは、幼いころからお笑いが好きでした。将来の夢はお笑い芸人になることです。ある日、Aさんは進学先としてお笑い芸人の養成校へ進みたいと両親に相談しました。すると、両親から初めは賛成してもらえませんでした。これまでAさんの母親は、Aさんがやってみたいと思うことは「何でもやってみたらいいよ」とAさんのことを後押ししてきましたが、今回のことは初めてAさんに賛成しませんでした。母親は、ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブルの会議に参加するAさんをそばで見守り、親子でお互い本気になってぶつかりながら向き合い、よくよく考えてみることにしました。すると自分の考えが間違っているのかもしれないと考えるようになりました。

母親は「親が子どものしたいと思うことを阻止するのは、その子のためにならない。結果ではなくその過程が大事だと思う。その過程がこの子の財産になると感じている。それが“子どもの成長を後押し”するということだと思う。今となっては、子どもが何かしたいと思うこと自体が親としての喜びだと感じている。」とお話ししてくださいました。

その後、Aさんと母親は、2人で一緒にAさんの父親の説得に成功しました。

ある大学生の夢




大学2年生のCさんは元々、ある将来の夢を持っていました。しかし病気を患ってしまい、その夢を叶えるのが難しくなり諦めました。その夢を失ったことで、どのように次の夢を見つけたらよいのかわからずに悩んでいました。Cさんはひがしおおさか地方創生ラウンドテーブルにてその悩みを共有し、その話を聞いた70代の市民委員Dさんから、ある考え方について以下のようなお話をしてもらいました。

「たとえ叶えられなかった夢があっても、それに携わることはできる。例えば、将来の夢で様々な事情によりその夢が叶わない状況があったとする。もし消防士という職業を選べなかったとしても、人の命を守ることに携われる。職業は一つの“手段”に過ぎないので、その手段となる職業の手前にある自分の思いや目標を大事にしたほうがよいのではないか。消防士ではなく、設計の勉強をして消防車を設計する仕事に就くことも、自分の夢を叶える一つの手段である。少し角度を変えて自分の夢について考えてみるのもよいのかもしれない。そうするとたくさんの選択肢が見えてくる。」

その話を聞いたCさんは「今までの考えは夢を諦めた後の甘えだったかもしれない。これをきっかけに新たな夢を探していきたいと思う。」と話され、このやりとりが新たな視点から次の夢を探し直すきっかけとなりました。

Dさんは「子どもや若者がどうしても夢を叶えられない状況になってしまった時には、一歩でもその環境から抜け出せるようなサポートの手をみんなが差し伸べることができるまちに東大阪市もなってほしい。」と語ってくださいました。



 ひがしおおさか
地方創生ラウンドテーブル

